

11. 本学小児歯科外来における口腔衛生指導について

○安河内ひとみ、氷室 陽子、安武 郁子、吉川ゆかり

池上ゆかり、今村まり子、柏木 公枝、山縣 知子

橋本 由香、長安佐世子

*尾崎 正雄、*石井 香、*塚本 未廣

(福歯大・歯科衛生士部)

(*福歯大・小児歯)

小児患者の低年齢化傾向の著しい現在、保護者に対する口腔衛生指導においても、それなりの工夫が必要と思われる。永年、大学付属病院小児歯科で保護者と、特に母親に接して来た私達は、患児の低年齢時における保育環境や保護者の意識・行動の変化が乳歯齲蝕の増減に大きく影響する事実を経験してきた。今回、我々はこれら多くの問題点のうち、特に最近増加してきたイオン飲料及び果物類に対する認識と摂取法が、早期の乳歯齲蝕発現にいかなる影響を及ぼすかについて検討を行った。現在、イオン飲料がかなり多量に市販され乳幼児医療に於いてもその使用が推奨されている。特に、小児科医により乳幼児の発熱時の脱水症状を防止する為に摂取が勧められているという。この為、低年齢児をかかえる一般家庭に於いて、乳幼児対象のイオン飲料を常備し、体に良いものだからむし歯にもなりにくいだろうと誤解し、だらだらと与えるケースが目立ってきた。また、果物に対しても同様に菓子を与えるよりはむし歯に成りにくいと考えられているようで、無制限に時を選ばず与えられているケースが多いようだ。そこで、その実態を知る為に、低年齢児（1歳6カ月児）をもつ母親を対象にアンケート調査を行うと同時に、一般に市販されているイオン飲料や果物のpHの測定及び、糖分の調査を行った。その結果興味ある知見を得たので報告する。